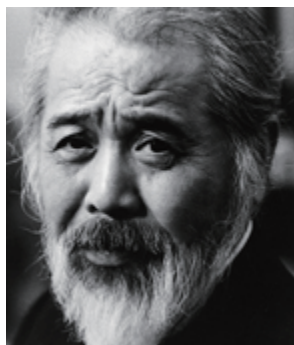


■ 代表者メッセージ



GKデザイングループ代表

栄久庵 憲司

60年の歩みとデザインの使命

GK60周年は、これからの100周年を迎えるための基礎的知識の蓄積でなくてはならない。しかし、その蓄積された知悉は、自らが自信を持って人びとに供する理念がなくては、相手に対して伝わらない。そしてその理念は、一朝一夕に出来るものではなく、やはり今日に至る60年の歴史が、よりどころとなることは確かである。

一言で60年といえども、それはいたって長い道のりであり、その過程においてGKグループのあり方は、自然に発展してきた。なかでも、GKのメンバーの結束性が高いのは、種々の事業の総合性にあることに間違いない。その一方で、GKはそれぞれの専門性の深化を追い求め、邁進してきたともいえる。個から集団が生まれ、さらにそれらは専門化への道を目指すということは、歴史の流れの中でのしかるべき帰結であることは確かではある。しかし、この60周年の期に及んで改めて考えねばいけないことは、それらを打破して、新たな協同化さらには世界化への道のりを探ることであろう。その時必要となることは、単なる専門性を越える思考への道筋の探究であり、さらに強固な連携性の獲得であろう。そしてそれを築くには、60年の間に培った知識・経験を活かさねばならず、さらに願わくば、GKが協調することで生じる絆を以って世界をリードしてゆかねばならぬことである。この時、間違っても「井の中の蛙、大海を知らず」というようなあり方に固執するようであってはいけない。

幸いにして、日本にデザインが求められ始めた時期であるGKの黎明期は、デザイン自身が、社会との関係において、非常に大きな親和性を以って迎えられた時期であったともいえる。そのことによって、それまでのものの所有感は一変させられたといっている。「モノの民主化」「美の民主化」時代の始まりであった。しかし今、その当時の所有感到に耽溺することは、なにをにおいても避けねばならないし、それを打破するには相当な勇気と研鑽を必要とするであろう。60年を経た今日、これからは100周年を迎えるという目標を持ってこそ、明解な目的が構築される訳であり、それこそが、さらなるGKを強固にする道筋であるはずだ。GK60周年を迎えるにあたって、かく願う次第である。

2012年6月